

目的 本研究は、英綴ぎと少年非行の関連性の有無を解明することを目的とする。とくに英綴ぎと少年非行が問題とされる理由を従来の家庭科教育とのかかわりあいのなかで究明する。

方法 わが国における家庭科教育の歴史をふまえたうえで、現行の英綴ぎ形態を分析し、英綴ぎと少年非行に関するイギリス、ユーゴ、東ドイツの調査研究を検討する。

結果 英綴ぎ家庭に非行が多いという事実が、英綴ぎが少年非行の原因とはいえない。と、家庭の問題は父と母の共同責任であり、この共同責任を果たす能力養成のため家庭科教育が男女ともに必要である。